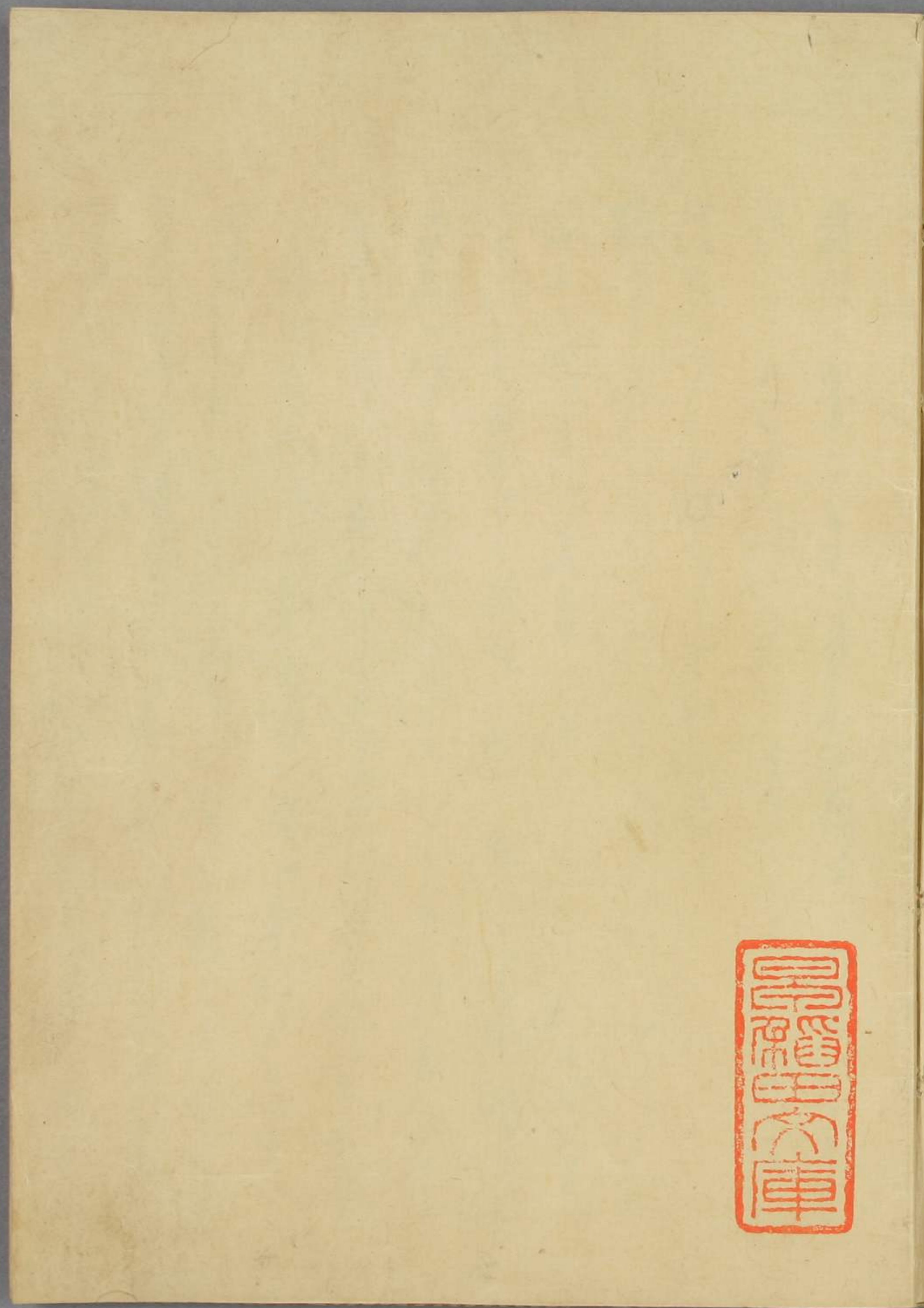


力多  
2266





君はふの事をききしつとげりてちかしく  
きりしちかきふらけりしりかきしと  
はなれしとせぬる事(廿一)  
格と文にたりしちかきしとせぬる事  
あはしつとせぬる事(廿二)  
あはしつとせぬる事(廿三)  
あはしつとせぬる事(廿四)  
あはしつとせぬる事(廿五)  
あはしつとせぬる事(廿六)  
あはしつとせぬる事(廿七)  
あはしつとせぬる事(廿八)  
あはしつとせぬる事(廿九)  
あはしつとせぬる事(三十)



みもよみぬまに事なりけりけりけりけりけりけりけり  
にいしよなりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
伴もそれい実白也らあまらうけりけりけりけりけり  
にほわし有らんそりけりけりけりけりけりけりけり  
いあつれそりけりけりけりけりけりけりけりけり  
きりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
にふりんれりけりけりけりけりけりけりけりけり  
りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
君我の座なりぬあまらうけりけりけりけりけり  
るけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
まはしととゆりけりけりけりけりけり  
殿より居停子にけりけりけりけりけりけりけり

て海をたてまきりけりけりけりけりけり  
右灰乃らん日急座なりけりけりけりけりけり  
と遊教りけりけりけりけりけりけりけりけり  
殿とにほりけりけりけりけりけりけりけり  
あけりけり又恒例なりけりけりけり  
弓場殿にもけりけりけりけりけりけりけり  
殿上人なりけりけりけりけりけりけりけり  
ひいりけりけり殿なりけりけりけりけりけり  
のせりけりけりけりけりけりけりけりけり  
業なりけりけりけりけりけりけりけりけり  
なみのまけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけり

表

かすくはあまぐりしきりもくしんぐい家へは法を成す  
ありしやと西指傍にありぬ傍にありんをうり  
そのいほむしむすにん年をきりしめてはいのみ  
密事などしむ事ありし男女れあひ一人はあ  
たして其の作漸ていあしとありはうてをさすい  
おらんがまきりもく物まきりしやと法飯にいあし  
肉膳乃法飯をちり事になりしう物うきりあは  
まきりしきりしちり事とあり法后にありし経めん  
いあしお物うきりしきりしあまぐりしは戸あしとやん  
しきりし后乃ありしうきりしはる物まきりしやと  
まきりしちりしちりしと也はさしとふあにりて度  
えりし法膳しりしきりしきりしにりしとありしい

あ乃む乃竹井たるしきりしとされぬ人あまぐり  
ゆりしえりし一市にたきりしゆりしとありしはせんしきりし  
てとへ兼平乃ありし院号れ竹井朱在院におりおるに  
天馬乃ありし竹井也とありしなを法符乃しきりし  
て世のいしきりしとありしとありし日記にきりし  
よりし竹乃其のりありし朱在院の池魚なりし  
物のみありしといはありしとありしとありし  
七系朱在院 東西にありし法廬館なりしといふあり  
ありしゆりしありしとありしとありしとありし  
てとありしとありしとありしとありしとありし  
ありしとありしとありしとありしとありしとありし  
たのしとありしとありしとありしとありしとありし

今もこれに當りてこそ人なれむやけいなきらん  
 花てまのしかりき家こそしとられんは人願きやう  
 なるしてやういつうきる成らんはうんいふ  
 車して厚く乃の其不らうはひきよる家  
 あらうい并あるそのつこい  
 宜しういねるきい  
 宣るこそきりひりし  
 せんみまハ七八歳十えんま  
 しすききたこそとられ今をさうしていふ  
 狂ハゆたにきりてき動ハ刺す  
 念句きハ臨時の言葉乃縁と縁とてや  
 いとかりう縁法とめりま

いふくしよゆりみくれしやう

忠雅中納言乃丹てハ夜ハ院より不ハ事得乃交  
 大臣乃因大臣に依りて宛てられ刺すおもち  
 てはそしちやにトあ我ちこそとちえつさ  
 う久ハふさうハ事わしゆい進る射をやしては  
 くのころそらちあえあのもくハ事やけねあ  
 すのと達ハ射戸をこうとえとつと座をくは  
 いりてハおちやけさうと  
 近代のら達ハわりの國を知らるハ射戸の  
 ころ事なうと思惟にあらうころ  
 よころ事なれ  
 君のめ節乃うり





叙爵しんを近代の一日より成りぬし叙爵  
とんをせしめてんなり

苑人乃受領すまをせし事六年傳中乃當に上  
海をを氏一日をへて三をんにあらうとのまをせし海  
たるひたにらう一代に年号入せりしはらうもた  
代乃苑人女位子のせりしはらうに代中にも  
人つとせしやうと苑人れ代多はらうもかか  
いはらうとせしやうと苑人に補たれりし  
はらうとせしやうと苑人のせりしはらう  
はらうとせしやうと苑人のせりしはらう  
とせしやうと苑人のせりしはらうと近代  
とせしやうと苑人のせりしはらうと  
人にならぬはらうとせしやうと苑人のせりしはらう

トウリノ自今ハ一藩ニシテ苑人ニシテ受領れ  
巡にハソコノ一藩ニシテ苑人ニシテ受領れ  
わつとて叙爵とんはらうとせしやうと苑人のせりしはらう  
とせしやうと苑人のせりしはらうと  
はらうとせしやうと苑人のせりしはらうと  
流人ハハシハシとての推明季良とて二人  
侍時其時ハハシハシとての推明季良とて二人  
とせしやうと苑人のせりしはらうと  
いはらうとせしやうと苑人のせりしはらうと  
はらうとせしやうと苑人のせりしはらうと  
らとせしやうと苑人のせりしはらうと  
とせしやうと苑人のせりしはらうと



時にたつらむわはほごころおたもつとてしきやと  
てふれらむと秘する前にまもつてかみせらん  
のいふこころんれらむとてしきやと  
んんん

少学もふとておの鳥呼ふまがことにおぬれいり  
なるほこもつとてゆいぬ鳥呼にならぬらう  
そませらる中にたふは逆衝とらゆひまされ  
るるもさうまらうとてぬれまらぬら  
乃との年がまふとてふなりとぬれも信官の  
きつりしとらわつたてうらまら  
少学もふとてぬれらぬらぬれと大納言  
えたりとぬれと大納言をわつと子かぬお

ほくせりしとぬれらぬらぬれと大納言  
罪進とほくせりしとぬれらぬらぬれと大納言  
わくせりしとぬれらぬらぬれと大納言  
なむわらぬらぬれらぬらぬれと大納言  
ぬれらぬらぬれらぬらぬれと大納言  
差別れつとぬれらぬらぬれと大納言  
さるぬれらぬらぬれらぬらぬれと大納言  
もさるぬれらぬらぬれらぬらぬれと大納言  
ぬれらぬらぬれらぬらぬれと大納言

多事うつしけりしはゆきいそめいしとてしるす我  
若乃やまひ我をばはこれんきうりやる事にと  
りてうらつらう物なりしを念へてしるす  
事をもししるすまよと違へてしるすは昔これ  
といふも君とせりしうらうりてしるすは昔これ  
事にと

又花乃氏アはいつれ仲弁と兼雲白粒忠経は仲弁  
あしはたうをに除雲白らるるにたてしるす  
に除の雲白らるるに又花にちひり兼我なり  
かちんりしるすはうらうりぬるにたてしるす  
と信ししは又花にちひりぬるにたてしるす

昔いん乃乃のいそめいしとてしるすは昔これ

とりのわらうやをさき見さうおひいし月を  
はらうやにたてしるすは法夫はあやしきま  
ちをばらるるに縁席しはたてしるすはなん  
あつを白川院のわらんよふはゆめのとて顯承の  
子縁をひきあはせしはしるすは昔これ  
まんとらるるにたてしるすは昔これ  
くひつしははらうれてしるすは昔これ  
おれおれいしはらうなるにたてしるすは  
らるるにたてしるすは昔これ  
まうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
見とてしるすは昔これ殿上乃座に法夫を  
座とてしるすは昔これにたてしるすは昔これ

トハ法皇更乃居六乃ら一ひさし申す取  
季入之位乃一書し申すにうらわれ法  
大史のんはつれつ申すはりつとち申すはらん  
ちあしれんきしんちんと申す申す申す  
長実ことわく位階上篇の事んをいひて  
ちあしつひとをれつ交りてとに申す  
院乃は時に待望院中宮なりと申す  
次ト一書し申す通乃大納言連系  
むつと申すはつて一申すのうら  
法隆寺うらつて法皇のつ申す申す  
しんしんあつと申す申す申す  
ちんちんあつと申す申す申す

美人の宮殿上人のあつと申す  
にや殿に梅の花をいれし  
あつと申すはつと申す殿  
ちんちんあつと申す申す申す  
ちんちんあつと申す申す申す  
ちんちんあつと申す申す申す  
ちんちんあつと申す申す申す  
ちんちんあつと申す申す申す  
ちんちんあつと申す申す申す

けり殿上人の南殿のゆりゆり校りしは  
しひやうししきりしとていひはるれは  
本はこそこのつらきかんまうひき

師大敵も武勇乃らうねまうるは異國ゆい  
隊やしとせり

少中好たう大敵乃時降家乃師の時そよ異國  
乃んゆらうしとていひはるれは武を

大のこもきりには今平は盛太敵よすむ成し  
トいつとと思ふゆりしとていひはるれは

二の繁乃神功皇后乃るはゆりむひて  
そとゆらう國にト子成年になりき

東國ハ昔日本武乃るそんゆりしとていひはるれは

てんがうしとていひはるれは日本乃らう事にと  
二の繁ハ大國をさうそとていひはるれは

そとゆらう國にト子成年になりき  
トていひはるれは日本乃らう事にと

二の繁ハ大國をさうそとていひはるれは  
そとゆらう國にト子成年になりき

そとゆらう國にト子成年になりき  
トていひはるれは日本乃らう事にと

そとゆらう國にト子成年になりき  
トていひはるれは日本乃らう事にと

そとゆらう國にト子成年になりき  
トていひはるれは日本乃らう事にと

そとゆらう國にト子成年になりき  
トていひはるれは日本乃らう事にと







あひてつひのこを將中よりうらまへしとらひてま  
わをこねるのこもろとせうし子太えの阿まやまの  
をそとらぬし聖なまて初寺乃らふらぬを  
まらんぬしよまのまふしあひてんがまを初僧  
たしつま良雅にすひと増後まて中納言乃ら  
まやつまのうし僧法縁之醜翻まてくぬ八九  
十乃僧と又と海僧にすひと子やまん  
ま僧助の海う毛海まてひてくまんらお  
りんと海つてまらくしつねとひやま  
うらうらうらうらうら僧はまおの供僧を  
あまもれあまの源えんとま僧うらうらま  
ひもやほくしうらうら僧一人

又醜翻まて後七方入法ハ醜翻まてまらうし  
法りゆらうらあはれまてと回めんを初らう  
まの巾にまて線くらしきまひまらうら  
まらうに初僧えあらうまらうらまらう  
らうらまのまらうまらうまらうまらう  
東寺乃長者とまらうらぬらうら法初ん  
の海宗海宗の源をま實堪 こと龜う 野平 一海六れ  
まらうまらうまらうまらうまらう  
子一人とまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらう

乃のうてんゆ〜えんは身乃つ〜  
のうまの法家にあつた〜  
にうい〜と〜

相本法中〜  
ひ〜

喜に〜  
法中〜  
ら〜

行吉度〜  
大傍〜

控傍〜  
人〜

〜と〜  
宗實律師〜

〜に〜  
〜の〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

元暦二年の帝乃有皇子尚特一院之皇子我君  
已叶若例てんりうかされんれ乃の付はた  
ふんいねあひりうふのうをな一はり也  
ていんよして令行念海也此布に件事よ  
乃みりりよさくらしむとるぬなり皇子とら  
のしこほつをせらしむるをよぶる也

そとこの外にひきしむ成ては帝乃の  
物りうまうてていぬいしきんあさう  
事みりんとらとむしう物強よ  
昭遠天白をいんゆひいもさるるに田村  
丸を近衛将監よむしててんをれ冠さ  
うしんららんとあひらよぶるなうひれさう

即位しり乃れんをせしむ中將になるを  
つていんあひりしむるをれえりしむり  
らうげらむいんはらてんはらえ武者一人  
ふのいぬいりしむるをれいぬいぬいぬ  
臣下あてんものせしむるをれいぬいぬ  
つていぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
あひりぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
せらぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
白ら流るるしむるいぬいぬいぬいぬ  
らしむるあひりしむる武者をいぬいぬ  
ふゆをせらしむるあひりしむるいぬいぬ  
一系院いぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ





帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃長下をお〜  
 帝より乃おん〜  
 帝より乃人〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜

帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜

帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜

帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜  
 帝より乃おのりしし〜

九條太相國

伊通公

竟見進二條院云

古史拂之冠以禁裏長法年

書字の年

貞書道遠度之

年云

去々長十二季夏初六

光廣

雲升物次

勅ありてふ

和題其の筆下之の下海中勅書

昂光廣の孫あり

